

(5月31日 定例総会)

挨拶

挨拶

会長
岡本 一 雄



皆様、こんにちは。トヨタ自動車の岡本でございます。
JIPAの会長に就任させて頂き1年間が経ちました。

この1年を振り返ってみますと、国内におきましては、震災から1年以上が経過した今もなお、復興までの道のりはまだまだという感じが致します。

その中でも明るいニュースとしましては、東京スカイツリーの開業があります。震災の当日も、最高点近くの工事現場では、数メートルの振幅があったと聞いておりますが、確かな耐震技術を実証するように何の被害もなく、その光景は震災の困難に直面した日本に大きな勇気を与えてくれたと感じております。

この東京スカイツリーは、皆様ご存知のとおり、日本の独創技術の粋を集めており、日本古来の五重塔の心柱をヒントにした制震システムの他、高速のエレベーター等が用いられております。このエレベーターは、分速600メートルという大変高速のもので、地上350メートルの展望デッキまでわずか50秒ほどで到達できるそうです。

尚、世界には他にも高速のエレベーターがあり、中国の上海で建設中のエレベーターは分速1,080メートル、現在最速のエレベーターは、台湾の台北101にある分速1,010メートルだと聞きました。

ただ、ここで注目すべき点がありまして、これらのエレベーターは全て日本製であるということです。

このように大変高い技術力を持った日本の企業は、中国のみならず存在感が今後益々増すであろう新興国への展開におきましても、大きなチャンスがあると思っております。

一方、特許の世界に目を向けてみますと、企業活動のグローバル化に伴いまして、全世界の特許出願数は増加し続けており、その中でも、皆様ご存知のように、中国は2011年の出願数でアメリカを抜いて、ついに世界第1位になりました。

その他の新興国も、今後知的財産権が重要視されていくと思われませんが、これらの国々は中国を筆頭に、いろいろな課題も抱えていると思っております。

これらの課題に対しまして、日本を含む先進国がリードして、取り組んでいく必要があると考えております。